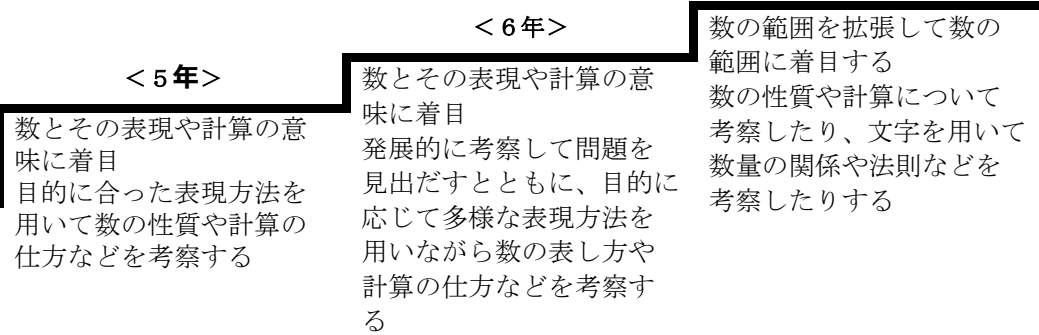


1. 単元で育成する資質・能力

生きて働く「知識・技能」	未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」	学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」
<p>(ア) 乗数や除数が整数や分数である場合も含めて、分数の乗法及び除法の意味について理解すること。</p> <p>(イ) 分数の乗法及び除法の計算ができること。</p> <p>(ウ) 分数の乗法及び除法についても、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。</p>	<p>(ア) 数の意味と表現、計算について成り立つ性質に着目し、計算の仕方を多面的に捉え考えること。</p>	<p>数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学の良さに気づき学習したことを生活やこれからの学習に活用しようとする態度を養う。</p>
<p>分数の乗法及び除法の意味については、整数の乗法及び除法から小数の乗法及び除法へと拡張された乗法及び除法の意味を適用できるように指導する。すなわち、小数の乗法及び除法の計算の考え方を基にして、除数が分数の乗法及び除法の意味について理解できるようにする。</p> <p>分数の計算については、真分数や仮分数の計算を中心に扱い、帯分数を含む計算については児童の実態によって扱うものとする。分数の乗法及び除法については、帯分数で表すよりも仮分数で表す方が計算を進めやすくなる。このことに児童が気付くことができる程度でよい。いたづらに複雑な計算を指導するのではなく、分数の計算を生活や今後の学習へ活用できるようにすることを重視する必要がある。</p> <p>分数についても、整数や小数の場合と同じように交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことを理解できるようにする。</p>	<p>分数の乗法及び除法については、分数の意味や表現に着目して計算の仕方を考えたり、乗法及び除法の性質を用いて計算の仕方を工夫したりして、分数の乗法及び除法について多面的に捉えて、計算の仕方について、児童が工夫して考え出せるようにする必要がある。</p> <p>計算に関して成り立つ性質に着目することとは、乗法に関して成り立つ性質や除法に関して成り立つ性質、交換法則、結合法則などの四則に関して成り立つ性質に着目することである。</p> <p>このように、数の意味と表現、計算に関して成り立つ性質に着目することで、多面的に捉えて、筋道を立てて計算の仕方を考えるなどして、数学的な見方・考え方を伸ばしていくよう指導する。</p>	<p>本単元では、これまでの学習で培ってきた分数をもとに、多面的に分数の意味を考えることも大切にしていきながら、分数のかけ算の学習で学んだことを適用しながら、分数のわり算の解決方法を見出だしていきながら進めていく。分数同士のわり算の計算や、帯分数になったとき、小数や整数が入り混じった計算においても、常にかけ算で見出した解決方法をもとに、それがわり算になっても、同じように解決していこうとする態度を養っていく。</p> <p>また、かけ算の学習から、「だったらわり算でも同じような考えが使えないかな。」という既習を適用した学びに、子ども自らが進めていけるような単元デザインを描いていく。</p>

2. 数学的な見方・考え方の系統

A 数と計算領域



見方・考え方の成長のプロセス

単元前
↓
本単元
↓
単元後

本単元では、数（分数）の意味と表現、計算に成り立つ性質に着目し、計算の仕方を多面的に捉え考えることの育成がうたわれている。除数が分数になっても、それを整数の計算に置き換えたり、乗法及び除法の性質を用いて計算の仕方を工夫したりすることで、子どもたちが工夫して考えを出せるようにしていくことがねらいとしてあげられる。しかし、分数の除法に関しては、逆数でかけるという先入観が先行してしまい、その計算の本質が問われないまま、形式的に解決してしまっていることが多く感じているように感じる。また、せっかく分数の乗法で得た分数の意味や表現に着目することも、性質を使って計算を工夫するといく考えも、うまく関連付けられていないことが多い。この原因の一つとして「単元デザイン」が考えられる。分数の乗法を、一頻りやってからでは、除法の学習が、少し切り離されているように感じ、同じように考えるという思考が育ちにくいように感じる。

そこで、本単元では、単元デザインを見直すこととした。分数の乗法と除法の学習を単元の中に、同時に組み込むことで、乗法の計算で育った見方・考え方を、除法でも同じように除数の分数に目を向けて考えられるようにしていきたい。

数の意味や計算に成り立つ性質に着目することは、乗法の計算で養い、それを、除法の計算でしっかりと適用して考えてこそ、その力が確かなっていきものであると考える。以下のような単元デザインにすることで、円滑に考えることができるようになり、本単元で身に付いた地力が、これからの学習（例えば、数学での「負の数」「無理数」）で迎える数を拡張したときの計算の考察に生かされるようにしていきたい。

3. 単元デザイン

時	単元の前	1	2・3	4	5・6	7・8	9	10	11	単元の後
学習活動の概要		乗法と除法の相互関係を整数や小数と同じように考える。	真分数×真分数 真分数÷真分数（本時） の計算の仕方を説明する	逆数を用いて、分数同士のわり算の解決方法を説明する。	計算の途中で約分できるときは、途中で約分する良さに気付く。	整数×分数 整数÷分数 帯分数の乗除法の計算	分数、小数、整数の混じった乗除法の仕方を考え、説明する。	計算の法則が、分数の場合も成り立つか検証する。	体積や面積での分数の活用	<p>・数の範囲が、正の数と負の数などに拡張しても、計算の法則を使って解決できるかどうか考察する。</p> <p>・分数の乗法を使って除法を解決できたように、正の数と負の数においても、加法・減法を統一的に見ることで計算ができる。</p>
育成を目指す資質・能力	<p>・分数の意味や表し方についての理解を深める。</p> <p>・乗数、除数が小数である場合まで数の範囲を広げて意味を捉えなおし、計算の仕方を考える。</p>	1つの式から、問題にする場所によって、式が変わることを確認する。	分数の意味や表現に着目して、分数の乗法及び除法について多面的に捉えて、計算の仕方を考察する。乗法で身に付いた見方・考え方を除法でも適用して考察できるようにする。	わり算のきまりを用いて、分数を整数に変えて計算する方法から想起して、逆数をかけて除数を1にする方法を見出す。	問題場面が変わっても、基本的な考え方は変わらないことに気付く。乗法から除法に関連付けて考える。		既習事項を活用して粘り強く学習に取り組み解決していく。	整数、小数で見出した法則を分数でも同じようにできるか検証する。	場面（面積・体積）が変わっても、同じように解決していく。	
単元内を繋ぐ問い	<p>・分数×整数、分数÷整数について、計算方法も関係も理解する。</p>		かけ算で考えたときと同じような見方が使えないかな。	除数を整数にするには、他の数でもできるんじゃないかな	場面が変わっても同じかな？	これまでの学習を使えば、もうどんな計算だって解決できるよ！				
見方（着眼点）			分数の意味や表現 分数の成り立つ性質	分数の成り立つ性質				計算に関して成り立つ性質		
考え方（思・認・表）			分数の乗法及び除法について多面的に捉えて、計算の仕方を考察する。		問題場面が多少変わっても、同じように乗法と除法を関連付けながら考える。			多面的に考え、筋道立てて計算の仕方を考える。		

4. 本時について

本時目標	分数の意味や表現に着目して、乗法の解決方法も関連付けながら、計算の仕方を考察する。
本時で知識・技能	真分数÷真分数の除法の計算方法を理解する。
育成を思考・判断・表現	分数の除法を多面的に捉えて、計算の仕方を考える。
目指す学びに向かう力	乗法で見出した解決方法が、除法でも同じような見方・考え方で解決できなから、その可能性を模索しながら活用していることとする態度の育成。

本時の主旨
除数が分数になった場合の計算について、前時で行った乗法の解決方法から、そのアイデアを用いて考え計算の仕方を考察できるようにする。また、分数の意味や表現に着目し、除法の法則を用いて、除数を分数から整数にかえれば、解決することができるようにする。

学びの文脈	①問題場面の把握	②	③	④学習を振り返る
数学的活動を回す子どもの姿	○除数の分数に着目し、解決方法の可能性を見出す。 ・答えは、はっきりしているので、どこに着目すれば解決できるかを明確にする。 ・前回のかけ算の学習も振り返る。	○乗法で解決した方法から、除法と関連付けて解決する。 ・かけ算の学習を振り返るなかで、かけ算の決まりを使ったことや、除数の分数を整数や整数の式に置き換えたことを確認して、それがわり算でも適用できないか考える。	○それぞれの解決方法からかけ算とわり算の関連性を考える。 ・それぞれの解決方法を、整理していく中で、除数を整数にする考え方（わり算のきまり）を使うことがわかりやすいことに気付く。	○除法の計算を振り返り、除数を他の整数に置き換えられないか、その可能性を追求していく態度を育成する。 ・かけ算のときのように、わり算のきまりを使えば解決できないことから、この方法で他の整数に置き換えられないかを考える。
数学的活動を回す手立て	かけ算の学習では、乗数に着目したことで、解決できたことを振り返り、わり算も除数に着目できるようにする。	①わり算のきまりをしっかりと再確認する ②除数を整数にしたり、整数の式に置き換えるとどうなるかを全体で確認する。	除数が最終的にどのように変化したかを板書で分かりやすく示す。（板書の構造をはっきりする。）	かけ算の解決方法とわり算での解決方法がしっかりと関連付けられていることを明示的に指導して、その良さを味わえるようにする。
問い		「かけ算のときみたいに解決できないかな。」	「わり算のきまりってなんだったかな。」	「3/4を他の整数に変えられないかな？」

見方
: 着眼点
・分数の意味や表現 ・分数の成り立つ性質

考え方
: 思考・認知、表現方法
統合・発展 ・除法の性質を使ったり、分数を整数の式に置き換えるなどして、解決の仕方を考察する。

6/4(月) 算数(20)

$\frac{3}{4}$ dlで $\frac{2}{5}$ m²ぬるのキル刺す。
1dlでは、何m²ぬれますか。

①わり算のきまり
同じ数をかける! → $\frac{3}{4} \times 4 = 3$

$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4} = \left(\frac{2}{5} \times 4\right) \div \left(\frac{3}{4} \times 4\right) = \frac{8}{15}$

② $\frac{3}{4} \rightarrow \frac{3}{4} \times 4 = 3$ とみる

③ $\frac{3}{4} \rightarrow \frac{1}{4} \times 3$ とみる

$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4} = \frac{2}{5} \div \frac{3}{4} = \frac{2}{5} \times \frac{4}{3} = \frac{8}{15}$

④ $\frac{3}{4} \rightarrow \frac{1}{4} \times 3$ とみる

$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4} = \frac{2}{5} \div \frac{1}{4} \times 3 = \frac{2}{5} \times 4 \times 3 = \frac{24}{5}$

⑤ $\frac{3}{4} \rightarrow 3 \div 4$ とみる

$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4} = \frac{2}{5} \div 3 \div 4 = \frac{2}{5 \times 3 \times 4} = \frac{2}{60} = \frac{1}{30}$

⑥ $\frac{3}{4} \rightarrow 3 \div 4$ とみる

$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4} = \frac{2}{5} \div 3 \div 4 = \frac{2}{5 \times 3 \times 4} = \frac{2}{60} = \frac{1}{30}$

⑦ $\frac{3}{4} \rightarrow 3 \div 4$ とみる

$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4} = \frac{2}{5} \div 3 \div 4 = \frac{2}{5 \times 3 \times 4} = \frac{2}{60} = \frac{1}{30}$

⑧ $\frac{3}{4} \rightarrow 3 \div 4$ とみる

$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4} = \frac{2}{5} \div 3 \div 4 = \frac{2}{5 \times 3 \times 4} = \frac{2}{60} = \frac{1}{30}$

⑨ $\frac{3}{4} \rightarrow 3 \div 4$ とみる

$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4} = \frac{2}{5} \div 3 \div 4 = \frac{2}{5 \times 3 \times 4} = \frac{2}{60} = \frac{1}{30}$

⑩ $\frac{3}{4} \rightarrow 3 \div 4$ とみる

$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4} = \frac{2}{5} \div 3 \div 4 = \frac{2}{5 \times 3 \times 4} = \frac{2}{60} = \frac{1}{30}$

⑪ $\frac{3}{4} \rightarrow 3 \div 4$ とみる

$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4} = \frac{2}{5} \div 3 \div 4 = \frac{2}{5 \times 3 \times 4} = \frac{2}{60} = \frac{1}{30}$

⑫ $\frac{3}{4} \rightarrow 3 \div 4$ とみる

$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4} = \frac{2}{5} \div 3 \div 4 = \frac{2}{5 \times 3 \times 4} = \frac{2}{60} = \frac{1}{30}$

⑬ $\frac{3}{4} \rightarrow 3 \div 4$ とみる

$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4} = \frac{2}{5} \div 3 \div 4 = \frac{2}{5 \times 3 \times 4} = \frac{2}{60} = \frac{1}{30}$

⑭ $\frac{3}{4} \rightarrow 3 \div 4$ とみる

$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4} = \frac{2}{5} \div 3 \div 4 = \frac{2}{5 \times 3 \times 4} = \frac{2}{60} = \frac{1}{30}$

⑮ $\frac{3}{4} \rightarrow 3 \div 4$ とみる

$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4} = \frac{2}{5} \div 3 \div 4 = \frac{2}{5 \times 3 \times 4} = \frac{2}{60} = \frac{1}{30}$

⑯ $\frac{3}{4} \rightarrow 3 \div 4$ とみる

$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4} = \frac{2}{5} \div 3 \div 4 = \frac{2}{5 \times 3 \times 4} = \frac{2}{60} = \frac{1}{30}$

⑰ $\frac{3}{4} \rightarrow 3 \div 4$ とみる

$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4} = \frac{2}{5} \div 3 \div 4 = \frac{2}{5 \times 3 \times 4} = \frac{2}{60} = \frac{1}{30}$

⑱ $\frac{3}{4} \rightarrow 3 \div 4$ とみる

$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4} = \frac{2}{5} \div 3 \div 4 = \frac{2}{5 \times 3 \times 4} = \frac{2}{60} = \frac{1}{30}$

⑳ $\frac{3}{4} \rightarrow 3 \div 4$ とみる

$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4} = \frac{2}{5} \div 3 \div 4 = \frac{2}{5 \times 3 \times 4} = \frac{2}{60} = \frac{1}{30}$

見方・考え方の成長
・乗法と除法の計算を通して、分数を多面的に捉えることができるようになる。
・どちらの計算も乗法及び除法それぞれの法則を用いれば、解決することができることに気づき、この解決のプロセスを数が拡張しても生かせるようになる。

5. 今回の主張

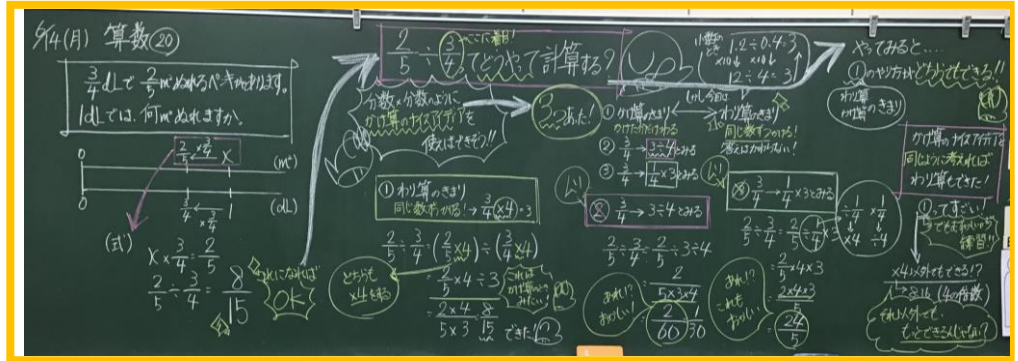
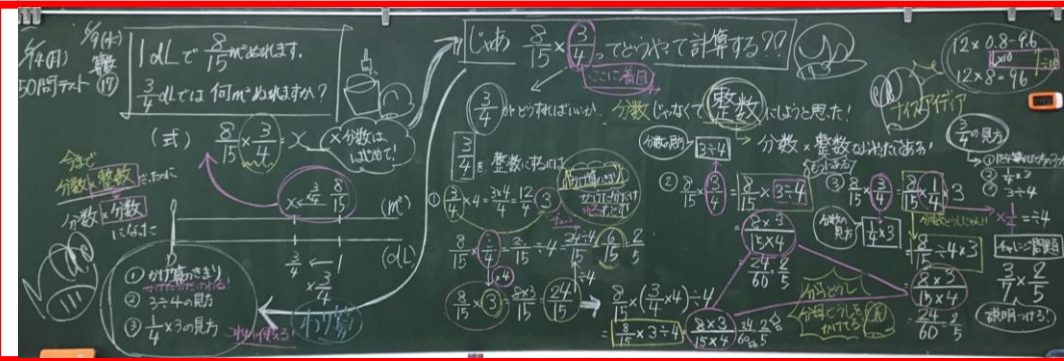
時	単元の前	1	2・3	4	5・6	7・8	9	10	11	単元の後
学習活動の概要		乗法と除法の相互関係を整数や小数と同じように考える。	真分数×真分数、真分数÷真分数(本時)の計算の仕方を説明する。	整数を用いて、分数同士のわり算の解決方法を説明する。	計算の途中で約分できるときは、途中で約分する良さに気付く。	整数×分数、整数÷分数、帯分数の乗除法の計算	分数、小数、整数の混じった乗除法の仕方を考え、説明する。	計算の法則が、分数の場合も成り立つか検証する。	体積や面積での分数の活用。	
育成を目指す資質・能力		1つの式から、問題にする場所によって、式かわることを確認する。	分数の意味や表現に着目して、分数の乗除及びわり算について多面的に捉えて、計算の仕方を考える。	わり算のきまりを用いて、分数を整数に変え計算する方法から想い出して、逆算をかけて分数をしにする方法を導出する。	問題場面が変わっても、基本的な考え方は変わらないことに気付く。		既習事項を活用して残り難しく学習に取り組み解決していく。	整数、小数で見出した法則を分数でも同じようにできるか検証する。	場面(面積・体積)が変わっても、同じように解決していく。	分数の意味や表現に着目して、分数の乗除及びわり算について多面的に捉えて、計算の仕方を考える。
単元内を深く問い			かけ算で考えたときと同じような見方が使えないかな。	分数を整数にするには、他の数でもできるんじゃないかな	場面が変わっても同じかな?		これまでの学習を使えば、もうどんな計算だって解決できるよ!			分数の意味や表現に着目して、分数の乗除及びわり算について多面的に捉えて、計算の仕方を考える。
見方(着眼点)			分数の意味や表現							分数の意味や表現に着目して、分数の乗除及びわり算について多面的に捉えて、計算の仕方を考える。
考え方(基・認・表)			分数の乗除及びわり算について多面的に捉えて、計算の仕方を考える。		問題場面が多少変わっても、同じように乗除と除法を関連付けながら考える。					分数の意味や表現に着目して、分数の乗除及びわり算について多面的に捉えて、計算の仕方を考える。

本時おける3Mのつながり

本時では、**かけ算で身に付けた見方・考え方を、わり算でも同じように適用できないかと考え、分数÷分数の計算の仕方を考えるという数学的活動**の中で、見方・考え方を働かせ、解決していった。

わり算では、分数の意味や表現に着目して考えると難しい場面があったが、解決方法を議論していく中で、成り立つ性質に着目することが、納得する解決方法であることをみんなで共有できた。さらには、かけ算のときに見出したアイデアが、わり算にも適用できるという**数学のよさ**も実感することができた。

このように、**3Mがしっかりとつながっていくような授業になったのは、「かけ算からわり算を円滑にする単元デザインを描いた」**からであると考えます。



かけ算の学習の中で、獲得した**見方・考え方**

分数÷分数について考える**数学的活動**

この**見方・考え方**を働かせ

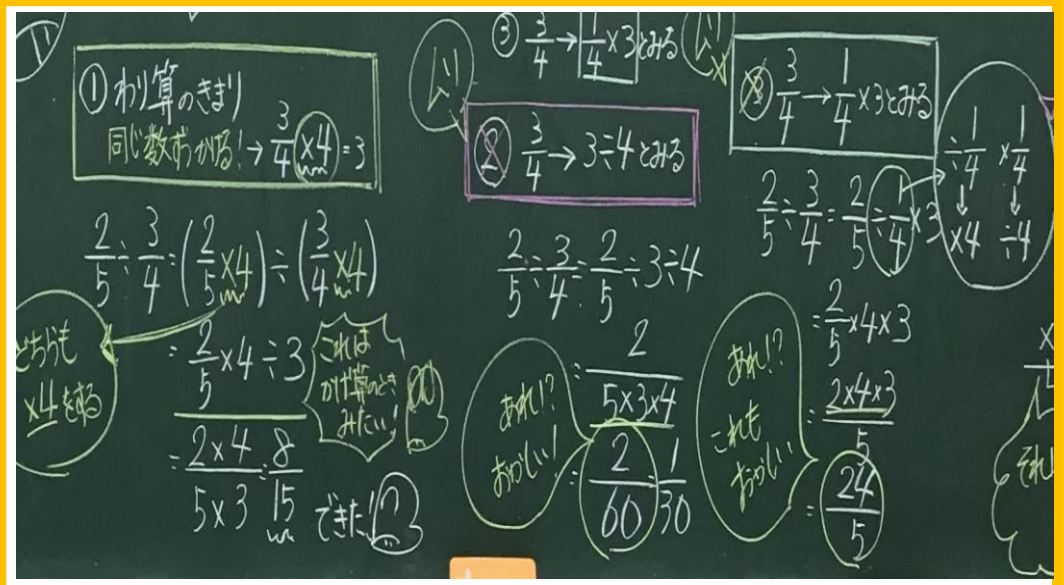
分数の意味や表現

②の考え
9/7を9÷4としてみる

③の考え
1/7×9としてみる

成り立つ性質

①かけ算のきまりを用いて分数を整数にする



子どもが**問い**をもつ

<説明>②
9を9÷7と見て5で計算する。
そしてかけ算は分子にかけ、わり算分母にわり算して分子、分母とわしかり算する。
 $\frac{5}{8} \times \frac{9}{7} = \frac{5}{8} \times \left(\frac{9}{7} \times 7\right) \div 7 = \frac{5 \times 9}{8 \times 7} = \frac{45}{56}$

<説明>①
9に7をかけて整数にします。その整数と5をかけて、始めにかけた7をまたもどさなきゃいけないから7でわって計算する。
 $\frac{5}{8} \times \frac{9}{7} = \frac{5}{8} \times \frac{1}{7} \times 9 = \frac{5}{8} \div 7 \times 9 = \frac{5 \times 9}{8 \times 7} = \frac{45}{56}$

<説明>③
9を9と見て5とかけます。こんなときは9×9を7×9と見ます。そして5/8×9とみて7は8とかけ、9とかけて計算する。

<算数日記>
分数の見方を使って式を計算できた。わり算のときも分数の見方を使えばいいかなと思う。かけ算(整数)はいい。

分数×整数、分数÷整数のときから、かけ算とわり算を結び付けて考えさせてきたことで、子どもの中からわり算に結びつく振り返りがでてきた。

数学のよさを実感する

算数日記
かけ算は①②番の式のしかたでできるけど、わり算は①番の式でできなかつた。①番の式でできる式を探してみたいです。

<算数日記>
私はかけ算の時の②番の式は、複雑でさき下ったけどわり算の②番は、け、こう簡単だ。たのびわり算の分数×グループはめもふうにしたいです。あと、①はかけ算でも、わり算でも使えることがわかった。たのび、たのびのかけ算とわり算の共通点は何があるかなと思いました。

分数どうしのわり算も、かけ算の時と同じでわり算のきまりを使えば答えを求められることが分かった。たのびの①のきまりを使えばかけ算・わり算どちらでも計算して答えを求められることも分かりました。そして、今日は×4をして計算した。

算数日記
たのびのわる数に着目して、2/5と1/4とちにも×4したら答えを出せることが分かりました。②と③からきなが、たのびで自分でたのびのかけ方を考えてみたいと思えました。

6. 授業記録と考察

C: いよいよわり算だね。
C: この前のかけ算で、やったやりかたが3つあったから、**同じようにわり算のできるって話になった。**

T: そうだったね。じゃあ、どんな、問題だったか確認するところからは始めるよ。

～問題場面の把握～

答えや、立式の根拠は第1時で把握しているので、もう一度確認した。

T: 答えは、分かっているから、安心だね。あとはどうやるかですね。

C: この前のかけ算では、かける数に着目したから、今回はわる数に着目すると思います。

T: そうだったね!! いいところに目をつけたね。すごいじゃん!

T: みんな言ってる意味分かった?

C: うん。**3/4に着目してそれを整数にすればいいってことだ。**

C: かけ算では、考え方が3つあったね。

T: そうだったね。あの、ナイスアイデアだったやつね。どんなアイデアだったけ?

C: かけ算のきまりを使って、3/4を整数にする方法。

C: ってことは、今回はわり算のきまりかな。

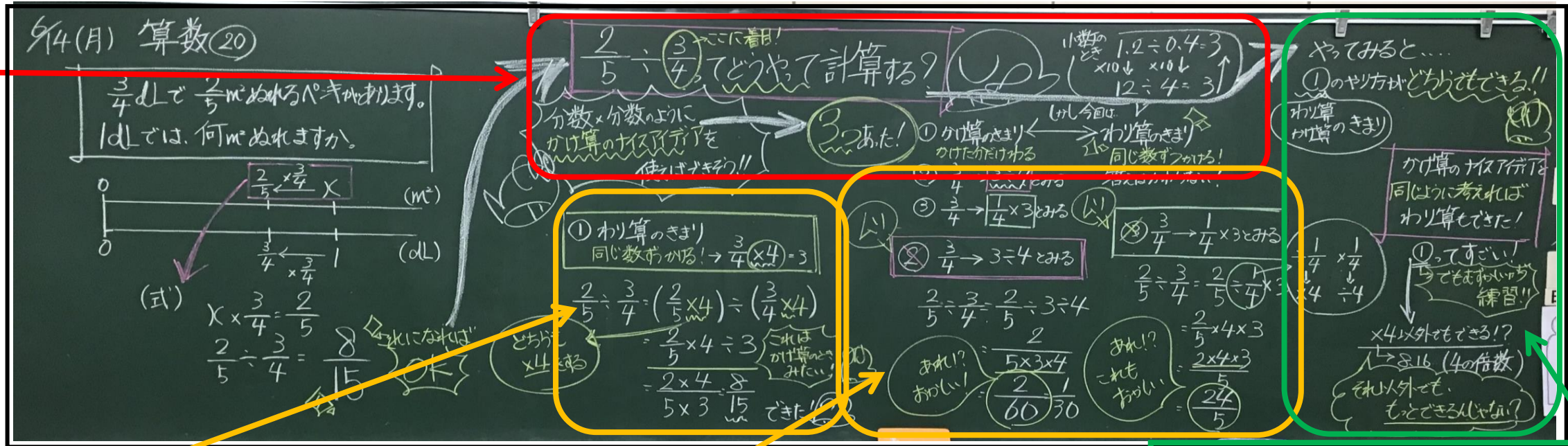
C: あとは、3/4を3÷4って見て計算する方法。

C: もう一個が、1/4×3って見て計算する方法。

T: 3つもナイスアイデアがあったんだよね。じゃあ、どの方法でもいいから、同じようにやってみようか。

C: 全部の方法でやってもいいですか。

T: いいよ! 1つでも、3つでも自分がわかる方法でやってみてね。



①わり算のきまりで考える。

T: 前は、かけ算のきまりだったけど、今回はわり算のきまりが使えるってことだったよね。そもそもわり算の決まりって何だったか覚えてる?

C: 覚えてない。

C: **たしか、どちらにも同じ数かえても答えは同じとかじゃなかったかな。**

T: かけ算とは、きまりが少しちがったね。ってことは、3/4の何かをかけて、整数にするんだけど、2/5にも同じ数をかけるってことかな。

C: そう。じゃそれでやってみよう。

T: やってみてどうだった。

C: できた。

まず、3/4を整数にしたいから、どちらにも4をかけます。そしたら、2/5×4÷3/4×4になります。それで、計算をしていくと、2/5×4÷3になります。

C: なんかかけ算のときみたいな式になった。

C: ×4は分子、÷3は分母にけるから、2×4/5×3になって、答えは、8/15だね。

C: 最初にわかった答えになった。すげー。

②3÷4、③1/4×3の見方で考える。

C: **先生! ②のやり方でやったら、なんかおかしいです!**

T: そうなの。

C: **だったら③のやつもなんかおかしくなる!**

C: ②の3÷4でやってみたら、2/5÷3÷4になるから、わり算が2回できてくる。2/5×3×4で、2/60になる! なんがちがう。

C: ③もおかしくなるよ! 2/5÷1/4×3だから、さらに計算すると2/5×4×3になって2×4×3/5で24/5になる。

C: 8/15にならない。どういうこと?

T: かけ算のときは、使えたのに、わり算のときはできないんだね。

C: いや、たぶん自分たちのやり方が間違ってると思う。けど、わからない。

C: わり算のときは、使えないってことじゃない?

T: じゃあ、わり算のときは、①のわり算のきまりを使ったやり方を使うことが1番よさそうだね。

C: かけ算のとき、1番使えるようになってよかった。

T: わり算やってみてどうだったか振り返ってみるよ。まず、かけ算のときと同じように、今回はわる数に着目したんだよね。そしたら...

C: **かけ算のときと同じように、3/4の見方を変えて、3つのやり方で解いた。**

T: そうだったね。だけど、なんと、②と③の見方でやってみたらなんか上手くいかなかったんだよね。

C: ①のわり算のきまりならできる。

C: かけ算のときは、いっぱいやりかたあったのに、わり算は1こしか使えなかった。

T: でも、かけ算で考えたナイスアイデアがわり算でも使えたって、すごくない。みんなの予想通りだったじゃん。

C: たしかに! よかった。

T: ちなみに、わり算のきまりのとき、×4したでしょ。×4以外でも、整数になるかな。

C: 4の倍数なら、なんでもいけると思う。

T: なるほど、×8とか、×12とか。

C: でも、どうせ約分するから、あんま意味ない。

T: 4の倍数以外はあるかな。

C: ない。わかんない。

T: なんか先生は、ありそうな気がするんだ。次の時間考えてみよう。

提案のPOINT (考察)

子どもたちは、かけ算で培った乗数に着目して、分数を多面的に見るという力をわり算の場面でも発揮できた。これは、かけ算のときに、じっくりと考えてきた成果だと思う。子どもたちの中で、答えが分かっていたこと、かけ算の流れからある程度予想して、わり算を考えられたことも、スムーズに考えられる要因となった。分数のわり算に対して逆数でかけるという先入観はないように感じた。しかし、3÷4の見方と、1/4×3の見方で、問題が解ききれなかったのは、納得がいかない子もいた。しかし、それを扱ったことで、わり算やかけ算のきまりのよさをしっかりと感じられたこと、自分たちの考えをしっかりと捉えなおすことができたと思う。